

平成30年8月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： 難民を知るワークショップ～もし、あなたが故郷を追われたら～
- 企画実施概要： ①実施内容
はじめに、弊団体の活動紹介及びODA事業、NGO相談員出張サービス事業について説明し、続いて弊団体が実施しているシリア難民・イラク国内避難民支援(N連、JPF事業)を元に制作した「難民を知るワークショップ」を行った。最後に、弊団体の難民支援の事業背景、事業内容等について紹介を行い、日本が実施するODA事業に対し、生徒の理解を深めることができた。
- ②対象者および参加人数
山形県立天童高等学校 演劇部員 25名

- 2 出張者氏名 小笠原 直子
- 3 依頼元／主催団体名 山形県立天童高等学校
- 4 実施予定日時 平成30年7月5日 (木) 16:00 ～ 17:30
- 5 実施場所 山形県立天童高等学校(住所:山形県天童市)
- 6 実施報告 <生徒のアンケート結果から>
・今まで「難民」は幼い頃から貧しい生活をしている人々だと思っていたが、今日のワークショップを受けて、私たちとあまり変わらない生活をしている人々が「難民」になったことを知り、驚きました。
・「難民」になることは特別なことではなく、自分たちにも起こりえることなのだということが分かり、今の生活を大切にしたいと感じた。
<所感>
・演劇部が国際問題である「難民」を題材にした演劇を行うにあたり、難民の現状や支援について、生徒が理解を深めることを目的として依頼を受けた。生徒達は積極的にワークショップへ参加する姿が見られ、特にシリア人の家族が隣国へ逃れる際に、家族の誰をシリアに残していくか決断する活動では、家族が置かれている状況や背景を踏まえ、シリア人の気持ちになりきり回答する姿が見られた。
・生徒達は、「難民」に関する情報を事前に調べていたが、難民が流出することによって起きる課題、弊団体が実施しているN連、JPF事業の紹介を行ったことにより、より具体的に難民問題への理解へ繋がった。

7 写真

	
難民のイメージについて質問を行っている	シリアの位置を確認し、シリア内戦を通じてシリア国内がどのように変わっていったのか、写真の並べ替えを行う生徒達

平成30年8月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

企画実施概要:

①実施内容

(簡潔に記載ください) 開発教育ワークショップ「地球の食卓」を、担当教員と協力し実施。先進国と途上国、難民の食を扱った写真を比較し、食卓のグローバル化、自給自足、食卓から出るゴミ問題、難民キャンプのカロリーは充足していても生鮮食品のない配給など様々な視点で写真を見ることにより、子どもたちが世界の食の問題について考えていった。最後に、世界中の誰もが飢えることのない世界を目指しているSDGsについても、言

②対象者および参加人数 小学校5年生 98人

2 出張者氏名

阿部真理子

3 依頼元／主催団体名

山形大学附属小学校

4 実施予定日時

平成30年7月19日 (木) 10:30 ~ 12:00

5 実施場所

会場名:山形市少年自然の家 山形県東村山郡山辺町大字畑谷字板橋3725番地

6 実施報告

初めての企画となる5年生対象の「国際理解キャンプ」を実施するに当たり、企画段階から相談を受け留学生などの外部講師の選択、活動内容についてのアドバイスをを行い、当日はファシリテーターとしてワークショップを行った。

校長先生からの感想: 今回のキャンプにおける体験によって、子どもたちの、国際理解に係る見方、考え方を深めることができた。子どもたちは、ワークショップを通して、自分たちの当たり前だけが当たり前でないことに気づいていった。今回の国際理解キャンプは、考えの枠を広げる非常に良い契機となった。

担当教員の感想: 「国際理解」という名目であったが、結局は「人間理解」に通じる力を育てることが大切だということに気づくことができた。

子どもの感想: 外国で食べているのと日本で食べているものがそんなに変わらないということがわかって意外でした。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)

	
IVYの紹介とワークショップについて説明	先進国の写真を見比べている

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
国際協力NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 国際協力人材セミナー in 東京

企画実施概要： ①実施内容
国際協力分野でのキャリアを考えている来場者に対し、求められる人材や職種、待遇面や情報入手の方法など、NGOへの就職を目指す上で必要とされる知識や心構えなどについて情報提供および相談対応を実施し、国際協力およびNGOに対する理解促進をはかった。

②対象者および参加人数
国際協力業界での就職を考えている大学生、大学院生、社会人
・全体約300名、・フリートーク座談会：約20名

2 出張者氏名 山田直樹

3 依頼元／主催団体名 独立行政法人国際協力機構（JICA）

4 実施予定日時 平成30年7月21日 （土） 10:00～16:00

5 実施場所 JICA地球ひろば（東京都新宿区谷本村町10-5）

6 実施報告
フリートークと個別相談を行った。
・NGOの待遇は団体によって異なることを理解した。（会社員）
・新卒では就職できないと思っていたNGOだが、新卒でも可能なこと、新卒にこだわらずに転職を視野に入れた社会人生活を考えることなどを学んだ。（大学生）
・海外の事業地で活動する他、国内での組織運営など、自分にも貢献できる業務があることが分かった。（会社員）

7 写真



セミナー会場の様子



相談対応ブースの様子

（写真1）

（写真2）

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
開発教育協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：

企画実施概要：

①実施内容

国際協力・国際理解に取り組んでいる団体や外国人市民が出展するイベントで、国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。

(簡潔に記載ください)

来場者(川崎市の住民や学生等が中心)からの国際協力に関する質問だけでなく、開発教育や国際理解教育に関する教材・資料等の照会にも対応した。

また、子どもや一般向けの、世界を知るためのワークショップも開催した。

②対象者および参加人数

川崎周辺のフェアトレードや国際協力に興味のある市民 約1,000名

2 出張者氏名 岩岡 由季子

3 依頼元／主催団体名 川崎市国際交流センター

4 実施予定日時 平成30年7月8日 (日)

5 実施場所 川崎市国際交流センター (住所:神奈川県川崎市)

6 実施報告

- ・ワークショップに参加した小学生からは、ゲームを通して世界のことを知ることができてとても楽しかった。クイズが楽しかったという感想をもらった。
- ・教員を目指す大学生からは、開発教育の教材について質問があり、実際に見せながら、対象や内容について説明した。
- ・フェアトレードに関心があるという主婦からの質問については、様々な商品や、どこで販売しているかも含めて、紹介した。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



世界を知るワークショップの様子

(写真1)



相談対応の様子

(写真2)

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: NGOを対象とした国際協力・国際協力民間助成説明会でのNGO相談員ブースの出展

企画実施概要: ①実施内容: 関西・大阪21世紀協会万国博覧会記念基金事業、リそな・アジアオセアニア財団、関西地域NGO助成プログラムで協力し、NGOを対象とした民間助成制度説明会の場で、NGO相談員ブースを出展しNGO支援スキーム(外務省、JICS)等の相談の対応に応じた。また、ブースにはJICA関西からも参加いただき、JICAのNGO支援制度の説明も併せて行った。

②実施対象者: 関西地域(大阪、兵庫、京都、三重、奈良)のNGO職員25名

2 出張者氏名

高橋美和子/谷川詩織

3 依頼元/主催団体名

関西NGO協議会/関西・大阪21世紀協会万国博覧会記念基金事業団/
リそな・アジアオセアニア財団

4 実施予定日時

平成30年7月20日 (金) 12:00~18:00

5 実施場所

大阪府大阪市 中央区谷町2丁目2-20 2F
大阪ボランティア協会大会議室

6 実施報告

・参加NGOからは、ODA支援制度・民間助成制度をあわせたNGO支援制度説明会は今までになく、次年度も継続して開催を望む声があった。
・JICA関西はNGO相談員ブースにて当会と相談対応にあたったが、外務省の支援制度については説明ができないため、東京から直接担当者が来ていただくことが望ましいという意見をいただいている。
・開催直前に、民間企業及びJICSからも制度説明会参加の依頼があったため対応をした。ワンワールドフェスティバル(2月開催)のNGO参加者が減っているため、次年度も7月頃に時間を十分確保し支援制度説明会を開催するのが望ましい。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



NGO向けの助成制度を説明する民間財団(関西・大阪21世紀協会)

(写真1)



広報にNGO相談員ブースを設け、休憩時間及び個別相談の時間にJICA関西の職員及びNGO相談員で対応した。

(写真2)

以上

平成30年7月3日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 「チームひょうご」でのネパール大震災救援活動の経験共有

企画実施概要: ①実施内容
「チームひょうご」は2015年のネパール大震災後に阪神淡路大震災の経験を持つ県内の大学やNPO、個人によって設立されたネットワークである。今回、関係者、一般の方を対象に「ネパール地震被災地支援のこれからを考える会」を開催。

(簡潔に記載ください)

②対象者および参加人数
兵庫のNGO、NPO、大学、一般関係者の方々、21名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 人と防災未来センター東館4階 兵庫県立大学大会議室

4 実施予定日時 平成30年7月2日 (月) 14:30 ~ 20:00

5 実施場所 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

6 実施報告
NGO相談員としてPHD協会のネパールにおける活動経験を共有することで他団体や一般の方の今後の支援や関わりの参考としてもらった。今回は特に防災と口腔衛生というテーマでのアプローチを報告したところ、関係者が多くの質問が寄せられ、関係者の興味が高いことが窺えた。また今後の活動についてアドバイスをを行い、微力ながら協力できたと思われる。
参加者の感想①: 防災、災害関連死と口腔衛生のことは初めて知り、勉強になった。震災時はもちろん平時でも予防等の取り組みは大変重要だと思うが、なかなか根付かないことが課題であったので、PHD協会のアプローチは参考になった。
参加者の感想②: 兵庫の義捐金のシステムは先進的だと思っていたが、今日PHD協会の方からふるさと納税のシステムなどを教えていただき、平時の活動として面白いアイデアだと思った。できれば知事にも働きかけたい。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ

(写真1)



(キャプション) 学生のグループディスカッションの結果。NGOで働く条件を考えてもらったもの

(写真2)

以上

平成30年7月24日

外務省国際協力局民間援助連携室

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： 国際協力活動について
- 企画実施概要： ①実施内容
(簡潔に記載ください) 国際協力活動の具体例を提示することで、教職員の国際協力についての理解を深め、国際色豊かな子どもを育てる一助とする
- ②対象者および参加人数
阿弥陀小学校教職員36名

2 出張者氏名 高藤 真理

3 依頼元／主催団体名 高砂私立阿弥陀小学校

4 実施予定日時 平成30年7月4日 (水) 16:00 ~ 16:40

5 実施場所 高砂市立阿弥陀小学校(住所:兵庫県高砂市)

6 実施報告

NGO相談員として、当会の研修事業活動をお示しすることにより、教職員の皆さまへ国際協力について理解を深めていただく機会となった。

感想① 国際協力は、物質や経済支援だけではなく、人を育てるということも支援になり、教育の現場は研修場所を提供することで支援の1つとなる。

感想② 研修場所として海外の研修生を受け入れることは、国際協力の1つにもなるが、教職員や生徒の刺激にもなり、国際的な視点を持つなど視野を広げることにつながる。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)

	
(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ	(キャプション) 国際協力の具体的な活動について説明しているところ

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年7月11日

外務省国際協力局民間援助連携室

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：

企画実施概要：

- (簡潔に記載ください)
- ①実施内容
国際ロータリー第2680地区の米山記念奨学セミナーにて国際協力に
関しての講演を行う。内容は国際協力概論を中心とし、NGO相談員
事業のPRも行う。
 - ②対象者および参加人数
ロータリークラブ会員、米山記念奨学生、計215名

2 出張者氏名

坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名

国際ロータリー第2680地区 米山記念奨学会

4 実施予定日時

平成30年7月8日 (日) 14:00 ~ 16:45

5 実施場所

神戸女子大学 ポートアイランドキャンパス D号館501教室
(神戸市中央区港島中町4-7-2)

6 実施報告

独自の国際協力活動をしているロータリークラブのメンバーにNGO
相談員として国際協力活動の一例を報告させていただいた。また博
報堂生活総合研究所の調査結果等を用いてNGOの職場環境や国際
意識についてレクチャーをすることで、今後の課題についても言及し
た。
今回の主たる目的として国際協力のアクターの一つであるロータリー
クラブの方々に国際協力について考える場を持つことに加え、NGO相
談員事業の存在をPRすることがあったが、その目的は十二分に達成
されたと思われる。当日は神戸を含む近畿地方に大雨が降っており、
参加者の集まりが不安であったが、想定より少し少なかったものの、
十分な人が来てくれたおかげで成果をあげることができた。実際に兵
庫の北部の方からは国際協力の講演についての打診を受けた。
NGO相談員制度のことはご存じなかった方が多かったが良いPRに
なったと思われる。

7 写真

	
(キャプション)NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ	(キャプション)会場の全景、ロータリークラブの会員が兵庫県各地から集っていた

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 身近に感じる世界「世界がもし100人の村だったら」

企画実施概要： ①実施内容
世界の現状に目を向け、世界に興味を持つきっかけとして、ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を実施した。
教員を対象にNGO相談員事業について紹介することで、出張サービスの利用など制度についての説明を行い、他先生等への周知を行った。
②対象者および参加人数
豊見城市立豊見城小学校4年生85名、教員3名

2 出張者氏名 上原真紀

3 依頼元／主催団体名 豊見城市立豊見城小学校

4 実施予定日時 平成30年7月6日（金） 10:00 ～ 15:00

5 実施場所 豊見城市立豊見城小学校（住所：沖縄県豊見城市）

6 実施報告 総合的な学習の時間のテーマが「国際理解」ということで、その一環でワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を行った。ワークショップを通し、世界の多様性や世界の現状などについて体感し、特に、識字や富の分配のワークでは、世界の現状に驚いた様子を見せた。「世界には多くの言葉があることを知った」、「一部の人が多くの富をもっている。奪い合いは嫌だ」などの感想があった。
先生方にNGO相談員事業での出張サービス、出前授業の対応について伝えることができた。他の学校の国際理解教育担当者にも話してみるとの声をいただき、相談員制度の広報につながった。

7 写真（カラーで2枚程度添付のこと）



ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」
富の分配のアクティビティの様子



NGO相談員について説明し、校内や別学校の
先生方へも周知を依頼した

（写真1）

（写真2）

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 知ろう、今世界で起こっていること

企画実施概要： ①実施内容
世界の多様性について考えるワークショップを行った。
世界で起こっていることが私たちの生活とも関連があることを伝え、身近でできる国際協力について考えるきっかけとなった。
②対象者および参加人数
本部高等学校2、3年生16名

2 出張者氏名 永田有希

3 依頼元／主催団体名 本部高等学校

4 実施予定日時 平成30年7月10日（火） 10:00～17:00

5 実施場所 会場名本部高等学校(住所: 沖縄県本部町)

6 実施報告 「世界がもし100人村だったら」のワークショップを一部取り入れながら、世界で起こっていることや、自分たちの生活にも関連があることを伝え、自分たちにできる国際協力について考えた。生徒の感想より、「自分たちがどれだけ幸せか知り、もっとやるべき事があることに気づいた」、「他国のことを知ることができて良かった」、「自分の悩みがちっぽけで、今からできることをやりたい」など国際交流や社会貢献に興味・関心を持ってもらうことができた。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



午後のクラスの様子。
自分たちにできる世界の課題解決のためにできることをグループで話し合い。

(写真1)



午前中のクラスの様子。
自分たちができる課題解決を各グループ発表。

(写真2)

以上

平成30年8月27日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：学ぼう！参加型での国際理解

企画実施概要：①実施内容
参加型ワークショップの体験を通して世界を発信できる人材育成の手法についての講話。
②対象者および参加人数
コザ・インターナショナル・プラザスタッフと関係者5名

2 出張者氏名 永田 有希

3 依頼元／主催団体名 コザ・インターナショナル・プラザ

4 実施予定日時 平成30年7月20日（金） 14:00～17:00

5 実施場所 会場名コザ・インターナショナル・プラザ（住所：沖縄県沖縄市）

6 実施報告 沖縄NGOセンターの活動内容を紹介しながら、団体スタッフ自らが国際交流や世界とつながる活動イベントなどを参加型で行えるような手法を伝えた。
紹介したワークショップの一部を参考に来週予定のイベントで実践してみたいなどの意見をもらえた。
NGO相談員業務の説明を行い、今後も国際協力イベントなどについての相談対応につながる周知、広報を行った。

7 写真（カラーで2枚程度添付のこと）



当団体のワークショップなどを紹介

（写真1）

以上